

オーディオ実験室収載

アースアキュライザーの導入(2)(HP 収載) —フォノイコライザーと仮想アースの接続—

1. 始めに

インフラノイズ社から、アースアキュライザーEA-1が発売されたとの情報を入手し、早速導入を決めました。まずは、フォノイコライザーと仮想アースの接続に使用してみます。

2. アースアキュライザーEA-1の試聴計画

アースアキュライザーの仕様などの概要は前報(1)に示したとおりです。前報(1)によれば、アースアキュライザーは、種々のアースラインに適用可能とのことですが、仮想アースとの接続も主要な対象です。今回は、フォノイコライザーのZANDEN Model 120と光城精工の仮想アースCrystal Eとの接続に使用してみます。現在は光城精工のアースケーブルClone2Lを使用していますので、これと交換した結果について試聴します。



光城精工アースケーブル



アースアキュライザー

アナログシステムは、LINN LP-12であり、LINN LP-12のフォノケーブルのアースもCrystal Eに接続しています。

音源は下記を使用し、再生前にCDクリーナーで処理します。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein (Vn)

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーヴェン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル
EMI AA 9117・C
フリードリッヒ・ヘンデル メサイア
オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

3. アースアキュライザーEA-1の試聴結果

最初に光城精工のアースケーブルで聴いておき、ついでアースアキュライザーに交換して試聴していきます。

現状の光城精工のアースケーブルでも、ターンテーブルアキュライザー、糸糸のアームダンパー、CDクリーナーによる盤とアームとフォノケーブル、シェルのリード線などの処理の効果で、どの盤もこれまでにない躍動感あふれるパフォーマンスを示しており、これ以上の向上は望めないくらいではないかと思われるくらいです。

アースアキュライザーに交換しますと、バッハの *Sonatas & Partitas* は、解像度が増し、ボウイングの様子が、より丁寧になったように感じます。

ベートーヴェンの選帝侯のソナタは、余分な響きが後退し、タッチがクリアーになったように感じます。

ワーグナーのワルキューレは、解像度が上がり、取り分け低域がクリアーになり、ソプラノやメゾソプラノ位置がはっきりしてきます。

ヘンデルのメサイアは、合唱の分離と協和が向上し、通奏低音も明瞭かつ量感が増し、弦楽のパートがソフトになりソプラノとバスの歌唱も声の質感が向上します。念のため、元のアースケーブルに戻したところ、それらの違いを再確認できました。

なお、光城精工のアースケーブル *Clone2L* も専用のアースケーブルとして評価の高いものであり、かなりの良好なパフォーマンスを示すことが分かりました。

4. まとめ

LP-12のアナログ再生において、フォノイコライザーの *ZANDEN Model 120* と光城精工の仮想アース *Crystal E* との接続にアースアキュライザーを接続する効果を認めました。

以上